



鈴木賢和 議員



発達性読み書き障害の対応は

問 小中学校において、読み書きに困難さがある児童・生徒の状況と人数は。

答 このような障がいがある児童生徒は、個々の状況に応じた支援が必要であることから、就学支援委員会での協議などを踏まえ、他の障がいもあり特別支援学級に在籍する場合を除き、多くが通級指導教室に通っている。通級指導教室は、通常の学級に在籍しながら、学習障害や自閉症等個々の特性に応じて、週1回程度、個別の指導・支援を受けるもので、本市では、小学校は、袋井東小、浅羽東小、今井小の3校に中学校は袋井南中に設置しており、市内の小中学校から、対象となる児童生徒が時間帯を分けて通っている。現在通級指導教室に通う児童生徒は116人、このうち、読み書きに困難さを感じていると思われる児童生徒は32人いる。

P F A S の水質検査の現在の状況は

問 水道水の状況は。

答 * P F A S は水質検査項目の定期的な義務付けはされていないが、P F A S の有害性の指摘報道を受け、市内8カ所の水源で最も多い袋井第1水源について本年6月に水質検査を行った結果、暫定目標値を下回っていることを確認している。

*有機フッ素化合物の総称



水質検査の様子



竹野昇 議員



土橋工業用地開発計画

問 農業振興地域除外を地権者・実際に耕作されている方たちに知らせずに行つたのはなぜなのか。

答 手続を経て農業振興地域整備計画を変更したものであり、法制度上適切な手続であること認識している。

問 昨年9月、下流の木原地区が道路冠水、床下浸水被害、車に水が入る被害が出ている。埋め立てによる浸水被害の拡大の恐れについて、当局はどう考えているか。

答 放流先となる蟹田川の管理者である県との河川協議において、県開発行為技術基準で求められる調整容量約1万3000トン確保することにより、下流への安全性が確認されている。



大和ハウス工業株式会社社の工場移転が計画されている土橋地区の水田

社協会費を1世帯500円払っている件

問 任意で世帯会員になるのが本来の方法である。袋井市に住んでいるだけで社会福祉協議会に会費を払う仕組みがおかしい。仕組みをなくした場合、支障が出るなら市の補助金を増額すればよいのでは。

答 ご質問いただいた各世帯から納付されていると認識している。補助金の増額検討が必要な状況ではない。



黒岩靖子 議員



新規就農者確保の取組は

問 農業従事者数の減少と高齢化で、新規就農者への取組は深刻である。新規の受け入れから自立に向け多様な新規就農者に対する柔軟な支援が必要。市としての考えは。

答 クラウンメロンをはじめ、全ての農産物を対象に新規就農者の確保と育成に向けて、支援制度の情報提供や、農地所有者とのマッチングに取組むとともに、多様な就農形態に対応した支援を検討していきたい。

治水対策への取組は

問 異常気象に伴う局地的豪雨の発生で各地に浸水被害がある。田んぼダムの取組は。

答 大雨時に田んぼダムに一時的に雨水を溜めることで河川の水位上昇の抑制効果あり。取組を拡大していきたい。



温室メロンの栽培

本庁北側駐車場の利便性

問 来庁される皆さんが利用する北側駐車場は、駐車スペースが狭く、ドアが傷ついていたとか、隣の車にドアを当ててしまった経験が聞く。駐車スペース拡大が必要では。

答 駐車場設計・施工指針で定める小型乗用車の最低限に広さは確保している。スペースを広げると駐車台数が減るため断念した経緯がある。